



## 石川県造園業界の今後の展望:復興と伝統

副会長 北総一郎

石川県の造園業界は今、戦後最大とも言える転換期を迎えていると思います。我々が直面しているのは、能登半島地震からの「復興」という重大な責務と、加賀百万石の時代から受け継がれてきた「伝統造園技術の継承」という、二つの大きな至上命題です。

まず、震災からの復旧において、我々造園家が果たすべき役割は極めて多岐にわたりとても重要だと考えます。

住宅や公共施設の庭園、公園、道路緑地帯といった都市インフラの修復は、地域の安全と日常を取り戻すための急務です。しかし、我々の真の価値はハード面の復旧のみに留まりません。専門分野である「花と緑の復興事業」を通じ、被災された方々の心に安らぎと笑顔を届ける心を支える復興こそが、造園業界による真の社会貢献であると確信しています。

緑の持つ治癒力を最大限に引き出し、被災地のコミュニティ再生に寄与することは、業界全体のプレゼンスを高める機会であり責務です。同時に、我々が守るべき石川の造園技術は、世界に誇るべき無形の資産です。兼六園や金沢城公園に象徴される高度な管理技術を、いかに次世代へ繋いでいくか。県内各所の公園や名勝を高い水準で維持管理し続けることは、石川県の景観価値を不動のものにし、観光立県としての基盤を支えることに直結します。従って、緑化の予算も十分な確保が必要であると思います。石川県民の住み良い生活環境とは何なのか、観光に来てくださる方々が何を求めて来て下さるのか、住んで頂く、観光して頂くという思考

が大切と考えます。その思考に最も造園業界は貢献できる唯一の建設業だと思っています。

さらに、現代はカーボンニュートラルや生物多様性の保全といった「環境配慮」、そして、その課題を解決する新しい生活様式への対応が不可欠な時代です。我々は、先人たちが築き上げた伝統的な美意識を基軸に据えつつ、最新の環境技術やDXを柔軟に融合させなければなりません。

伝統を守るだけでなく、時代に合わせて進化させることで、造園業の新たな市場価値を創造していく必要があります。復興への使命感と伝統への誇りを胸に、技術の研鑽を怠らず、職人としての誇りを次世代に継承していく仕組み作りと、緑化を基礎とした都市再生がまさに業界に求められている使命と考えます。石川県造園緑化建設協会は、地域社会の未来を切り拓く先駆者として、力強く歩みを進めていく決意です。



## 翠星高校インターンシップ 1・2日目

宮川造園 宮川陽一

令和7年9月10日から12日にかけて、翠星高校にてインターンシップが行われました。この形のインターンシップは今回で3回目となります。10日、11日は翠星高校実習棟にて現場実習、12日は庭園などの視察研修となりました。

対象学生は環境科学コース、造園分野26名(男子11名、女子15名)、4班に分かれて、協会が準備した各コース(造園管理、測量、竹垣、人工芝ガビオン)を2日間で体験していただきました。

協会員約30名の方々のご協力のもと、各コースでは担当者より説明があり講習を受ける形式で学生たちは懸命に作業したり質問したりと生き生きと楽しそうに作業をしていたのが印象的でした。ある学生さんからは先輩からこのインターンシップは楽しいと聞いて体験にきたと言っていました。

現在インターンシップは新卒就活においては必要不可欠と言えるくらい重要になってきていて、この協会でのインターン

シップも永続的に行うことで翠星高校の生徒、先生にも造園業が印象に残り就職先に造園業が選ばれることも多くなると思います。少しでも人材不足の軽減になればと思います。将来、造園業が将来就きたい職業トップ10に入ることを願っております。



## 翠星高校インターンシップ 3日目

榎宮野勇吉商店 加藤健一

研修3日目。

二日間の実技実習を終え、最終日は視察研修でした。最初の視察場所は金沢城公園です。まずは県の担当者様より座学にて江戸時代からの歴史や、近年の工事や管理の様子の説明がありました。その後は金沢城公園を回り、2015年に大規模工事により復元された玉泉院丸庭園を視察しました。ここでも工事の苦労や現在の管理の説明がありました。今回は2024年の能登半島地震で崩壊した石垣の改修業況も見学しました。この崩れている箇所は江戸時代のものではなく、陸軍が積み上げた箇所だったそうです。江戸時代の職



人さんの技術力には感銘を受け、改めてその技術を継承していかなければいけないと生徒さんたちも受け止めていました。そのまま兼六園も視察しました。今回は女子生徒が多かったので茶屋街のカフェなどにも関心を持たれていました。

続いての視察は県立図書館でした。こちらでは現在管理されている協会員より説明がありました。生徒さんたちは四季よりの管理方法や、芝刈りロボットに関心を持たれたようでしたし、女子生徒は花壇の花にも見惚れていました。



昼食後、金沢港クルーズターミナルへ移動して、こちらでも協会員が施工時の海からの強風でのご苦労などのお話がありました。あいにく雨が降り出してきましたが、皆さん質問も出て熱心に視察していました。

最後の視察場所は県立中央病院でした。ここでは植栽工事も行い、現在も管理されている協会員に説明をして頂きました。能登キリシマツツジの植栽や、現在の自動灌水の説明があり、ここでも生徒さんたちは熱心に聞いていました。

近年の大規模植栽工事の現場を視察してもらいましたが、携わった公園や外構植栽が市民や観光客の憩いの場になっていることを実感してもらい、緑の大切さや、仕事のやり甲斐、造園業の魅力を感じ取っていただけたと思います。この視察を機会に施工に携わるのはもちろん、女子生徒にはデザインや設計といった道もあるので選択肢に入れてもらえることを願っております。

～翠星高校のみなさんへ～

現場実習へのご参加ありがとうございました。  
いつか現場で再会できる日を楽しみにしています！



## 熱中症対策講義

令和7年7月15日に金沢市異業種研修会館で、「夏の現場における安全管理」の講習会が開催され、協会員役40名が参加しました。講師は石川労働局健康安全課の宮田玄彦課長をお招きし、労働局が策定した労働災害防止計画の重点対策や労働災害発生状況の推移などについて説明されました。

また、熱中症対策では、重篤化防止のため、体制整備、手順作成、関係者への周知が重要であると強調されました。



## 四国視察研修

(株)向川外樹園 向川達広

令和7年度11月11日から1泊2日で四国研修に行ってきました。今回の参加者は24名になります。

1日目は、バスで片道約6時間かけ香川県へ到着し、アオアヲナルトリブートでビュッフエ(讃岐うどんや天井他)を頂いた後、全長450mの大鳴門橋遊歩道渦の道を視察しました。当日渦潮を見る事は出来ませんでした。渦上45mの高さからガラス床の上を歩いていると、まるで海上散歩しているような気分を味わえました。また橋上から見る鳴門海峡に浮かぶ山々と海は絶景でした。

次に一行が向かったのは、イサム・ノグチ庭園美術館です。美術館内(主に石を用いた庭園やオブジェ)中心の野外展示場には香川県産の庵治石を使った石組みのサークルがありオブジェと合わさることで、日本庭園の要素もありながら外国の世界観も感じられる造りになっていました。ガイドさんの話によりますと、オブジェに使われている石はスウェーデン産やインド産など多岐にわたるそうです。それら多様な石を使った空間は調和が図られており、アメリカと日本の両方にルーツを持つイサム・ノグチさんならではの作品だと感じました。

そしてホテルに向かい、鮭割烹のお店で乾杯をしました。みなさんお酒も入りとても賑やかな雰囲気の中でおいしい料理を食べることができ、色々な方のお話を聞けてとても楽しい宴でした。

2日目は栗林公園を視察しました。国の特別名勝に指定される回遊式大名庭園という点では兼六園に似た所もあるのですが、盆栽のような一千本の松の群集と間近の山々の借景があることで幽玄さはより深く感じました。園内一のビュー

ポイントである飛来峰(築山)からの眺めでは、広い池や橋、木々や山々を一望できます。みなさんしばらく景色に見入っており、私も江戸時代の景色を見ているかのような不思議な感覚になりました。

次に向かったのは石階段785段先に鎮座する金刀比羅宮です。私は少しだけ登り何人かで昭和レトロな出店を見て歩いていましたが、数人の方は奥社までの1368段の階段を登り切ったようで汗をかかれています。その姿を見ただけで金刀比羅宮へ続く階段の厳しさが見受けられました。その後でのさぬき名物骨付鳥うどん定食だったので、皆さんおいしそうに食べてあっという間に食事を終えていました。

最後は時間の都合で急遽向かう事になった、香風園です。この庭園は西側に日本庭園(池泉回遊式)、東側に洋風庭園(芝生広場)があり、驚くのは明治41年から昭和30年までは実業家鎌田勝太郎氏の個人庭園だったことです。これら四国の庭園や名所を散策する中でその良さも十分に味わいながらも、普段当たり前のように感じていた石川県の歴史や伝統の良さや奥深さ、魅力も改めて意識することが出来た研修となりました。

初めての四国は思った以上に楽しく、新鮮な景色や体験が多く、なにより同じ業界の方々とは何気ない会話から始まり色々な話が出来たことで、普段の忙しく大変な毎日から頭が離れられ、それがまた新たな活力となりました。また皆さんの色々な考えに触れいい刺激になりました。石川県造園緑化建設協会の方々にはこの場をお借りして心から感謝申し上げます。



## 令和7年度「緑と花のまちづくり推進員」養成講座

能登支部長 松田裕司

毎年、公益財団法人いしかわ緑のまち基金では、地域における緑化活動のリーダーとなる人材を育成することを目指して、「緑と花のまちづくり推進員」養成講座を開催しております。地域の緑化に関心がある方・緑や花に関する知識を深めたい方を対象に9月20日～11月16日の間に5回開催されました。

当協会は第3回目の「樹木の管理」をテーマにした講義を行い、午前中は講師のもと座学を受けてもらい、午後からは地域の公園で樹木管理について剪定と雪吊りの実習及び説明を行いました。活動では、まず当協会の指導員から、使う道具・剪定の仕方・肥料について・雪吊り等の説明を行いました。その後、班ごとに分かれて実際に剪定作業を行いました。枯れ枝や混み合った枝を整理することで風通しが良くなり、木全体が健やかに成長できるようになりました。また、根元にたまった落ち葉やゴミを取り除き、最後に雪吊りを行い、縛り方などを体験していただきました。

講師をやらせていただいて、昼からの班ごとの実習では受講生のまなざしが真剣だったため、気づけば身振り・手振が多くなり、少し筋肉痛になりました。実習では、思い切りよく剪定した枝を見て「これで大丈夫ですか!？」と心配する声もありましたが、その勇気こそまちを緑豊かにする第一歩です。皆

さんの明るい笑顔とチームワークに、こちらが元気をもらいました。

花と緑は、暮らしを豊かにするだけでなく、人と人をつなぐ最高のコミュニケーションツールです。講師として伝えたつもりが、実は私が一番学んでいたかもしれません。次回からは筋トレが必要かと思います。

最後に、この講座の魅力は、花や緑に親しみながら地域と関わる喜びを感じられる点にあります。身近な公園や通りが自分たちの手で美しく変わっていく達成感や、仲間と協力して活動する楽しさは大きなやりがいです。環境を守り、心の豊かさを育むまちづくりの第一歩として、多くの人におすすめしたい講座です。



## 加賀支部「アドプト活動」について

(株)岸グリーンサービス 坂田匡

私たちは、平成23年より加賀インター線および小松加賀線の路線でアドプト事業を展開しています。今年度は、多くの協会の協力で、加賀インター前と小松空港前での草花の植付け、清掃、除草(R7.6.17とR7.11.13)に加え、加賀支部の会社を集めてR8.3.13に景観講習会(今年度は、講師立花あずさ様、コミュニティガーデン～宿根草を取り入れた花壇デザイン～)を実施しました。きめ細やかな維持管理を通じて、地域の玄関口にふさわしい、美しく心地よい、道路の景観創出をしています。



## 災害救助活動を通して

(株)北陸グリーンサービス 松平博之

帰郷してこの地で創業し、はや四十年以上が経過しました。今日まで日本各地では多くの自然災害が発生し、国土や人命の甚大な被害を目の当たりにして来ました。先年の能登半島の地震や豪雨での被災は記憶に新しい光景ですが、初めて阪神淡路の被災地に立った時に、我々造園技術者の存在意義が見えたように思います。それぞれの立場や職業で救援に力を発揮してこそ、復旧復興に役立つことが可能となります。

特に東北の地震・津波の被災現場に入った時に、現場では既に自衛隊・消防・警察やその他の団体が活動を開始して居ました。多くの道路が寸断され森林からの倒木被害が多く見られ、埋まった土砂の中から救助を待つ車両などを見るにつけ、なれない手つきでチェーンソーを扱い、バックホウで土砂の除去に当たっているのを見ました。もし、ここに我々の技術や資格を生かす事が出来れば、大径木の伐採や重機やダンプカーでの運搬に迅速に対応が可能となり、一人でも多くの人命救助が可能となると確信しました。

阪神淡路の地に降り立った日から、早くも三十年以上の歳月が経過し、犬の力を借りて人命の捜索に携わり協会を組織してから既に二十年となり十数年以前の能登半島地震や中越沖地震、東北での津波被害や、今回の能登での地震津波、豪雨災害などその活動領域は広がって来ているのが現状です。改めて建設業従事者の技術や能力が多く求められています。石川県造園緑化建設協会と行政との災害派遣協定も、多くの方の理解と努力の結果、締結に漕ぎ着けました。これがマニュアル化され情報共有や装備、出動体系もまさかに備えて準備可能となりました。

災害は「いつ」「どこで」「どの規模で」が予想できない事



態です。日ごろから防災訓練や講演で意識の高揚を図っていますが、あくまでも訓練・備えとして意識し、決して我々が被災地に赴く日が来ないことを祈りつつ、自助・共助・公助の心がけを持ち続けたいと思います。誰もが安穏で幸福な生活ができることを祈りつつ、万一の災害に備え、造園関係者のできることは大きく、日ごろの業務の安全な遂行は勿論、まさかの事態の発災時にも、社会貢献が可能となるように技能集団として、日々技術の研鑽を心がけたいと願います。



写真は2011年・東日本大震災時のもの

## 皆様と共に、現場を支える力に

金沢庭材(株) 和田智博

弊社の業界における役割は、「皆様が必要としている商品を安定してご提供すること」にあると考えております。

しかし近年は物価高騰の影響により、商品価格が上昇し、皆様の業務に多大なご負担をおかけしている状況です。また生産地においても、高齢化や後継者不足により十分な数

量を確認できない場合があり、弊社としても課題を強く認識しております。今後は、より一層の企業努力が必要であると感じております。

これまでのように商品を仕入れるだけではなく、「皆様が必要としているか」「生産地から何が入荷できるか」そして

「何を提案できるか」を皆様とよりコミュニケーションを通じて共に考えていくことが、より重要になってきているのではないのでしょうか。

その一例として、「わい性チガヤ」という商品があります。本来であれば駆除の対象となるチガヤを品種改良したもので、環境適応力が高く、地下茎で広がりながらも成長が比較的遅いため草丈を抑えられるという特徴があります。このような植物を植栽することで、他の雑草の発生を抑制し、管理手間を軽減することが望めます。雑草対策には、除草剤の散布や防草シート、碎石を敷くなど様々な方法がありますが、「管理しやすい植物をあえて植える」という視点から提案できる商品です。

チガヤといえば、もともとは駆除が難しい植物として知られています。その強さを逆に活かすという発想の転換によって、この商品は生まれました。このように、既存の商品であっても視点を変えることで、画期的なアイデアが見つかるのではないのでしょうか。そしてそれは一人の人間だけではなく多くの方々の知恵と経験をお借りしながら見つけれれるのだと思います。

皆様との対話を通じて新たな商品を発見し、その価値を広めていくことで、皆様の業務に貢献したいと考えております。今後も人と人の繋がりを大切にし、造園業界の更なる発展の為、弊社のできる役割を全うしてまいります。



わい性チガヤ

## 法面工事現場の安全パトロール

中部地下開発(株) 谷口和男

令和7年11月27日(木)に法面工事現場の安全パトロールを実施しました。

工事名は令和7年度予防治山事業多田地区山腹工事(余裕期間対象工事)施工者は中部地下開発株式会社です。

法面工事現場は重機の稼働や高所作業など重大な事故

につながるリスクが常に存在しています。安全パトロールはこのようなリスクを早期に把握し適切に対処することで作業員の安全を確保し、労働災害を防ぐために欠かせない重要な活動であります。

安全パトロールの目的は3点あり、①潜在的な危険を発見し、事故を未然に防ぐこと。②パトロールで作業員の安全に対



する意識を高め、事故防止に努める。③問題が発見された場合、その場で是正措置を行い再発防止に努める等です。

今回のパトロールは地山、法面の状況はどうか、墜落防止について、機械の状況について、環境についての項目で安全点検表(チェックリスト)に基づいて実施しました。

安全パトロールの結果、地山、法面の状況は特に危険と思わ

れる箇所はありませんでした。

墜落防止については、親綱、安全帯とも適正でした。機械は始業前点検を実施していました。環境についても特に問題はなく、全体的によく管理され、現場での安全意識の高さを改めて感じました。

## 親睦ボウリング大会の開催



「親睦ボウリング大会」が令和8年2月21日(土)金沢市藤江南町のレジャーランボウル藤江店で開催されました。

会場はピンを倒すたびに歓声が上がリ、参加者の皆さんはボウリング大会を存分に楽しみ、親睦を深めました。

今回、参加チームは12チームで、各チーム4名による2ゲームのトータルで団体と個人の成績が競われ、熱い戦いが繰り広げられました。

上位の成績は以下の通り。(氏名は敬称略)

### 団体戦

- 優勝 (株)北陸園芸
- 2位 (有)昭美緑地
- 3位 (株)城北園

### 個人戦

- 優勝 楠 英世 (株)北陸園芸
- 2位 細川 悠介 (株)細川造園
- 3位 末永 輝 (有)昭美緑地

## 昨年(令和7年)度の行事報告

- |                             |                              |                                   |
|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 4月19日 令和7年度緑の相談広場           | 10月7日 1級造園施工管理技士講習(技術検定二次)   | 11月15日 令和7年度緑の相談広場                |
| 5月9日 総会                     | 10月10日 翠星高校の進路ガイダンス          | 11月27日 アドプト活動(金沢支部)               |
| 5月13日 1級造園施工管理技士講習オリエンテーション | 10月19日 まちづくり推進員養成講座          | 12月10日 令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨 知事感謝状 |
| 6月12日 全国都市緑化フェア岐阜視察         | 10月19日 緑と花のひろば               | 1月15日 新春互礼会                       |
| 6月17日 アドプト活動(加賀支部)          | 10月30日 緑のまち基金 穴水花植え活動への協力    | 1月20日 (いしかわ農業支援機構)いしかわ耕稼塾講師       |
| 6月23日 アドプト活動(金沢支部)          | 11月2日 石川県防災総合訓練              | 1月20日 翠星高等学校対象進路ガイダンス             |
| 6月26日 金沢市長講演会               | 11月2日 表彰式(災害復旧及び災害防止事業功労者表彰) | 2月21日 親睦ボウリング大会                   |
| 7月15日 夏場の安全対策講習会            | 11月11日 11/11~12 県外視察研修(四国)   | 3月13日 景観講習会                       |
| 7月29日 1級造園施工管理技士講習(計4回)     | 11月13日 1級造園施工管理技士技術検定講習(計3回) | 3月19日 アドプト活動(金沢支部)                |
| 9月10日 9/10~12 翠星高校インターンシップ  | 11月13日 アドプト活動(加賀支部)          | 3月23日 広坂通り等一斉清掃                   |

他、10~3月 金沢支部による(金沢市)公園等里親活動支援事業プロアー貸出し業務

## 樹木点検に関するお知らせ

倒木事故が相次いでいるのを受け、国土交通省は「街路樹点検の実施促進のためのガイドライン」を令和8年3月30日に公表しました。

本ガイドラインは、現状において定期巡回を実施していない道路管理者に向けて、街路樹点検の実施を促進するために、点検・診断の効率化・重点化の考え方を示し、倒木・落枝等による交通障害や事故(特に人命に関わるもの)をできる限り未然に防止することを目的とし、全自治体に通知しました。

また、「都市公園の樹木の点検・診断に関する指針(案)」(平成29年9月策定)が令和8年3月に改訂され、点検の実施の促進に資する内容が追加されました。この指針(案)における点検・診断の各種作業の相互関係を示したフローに基づき、公園管理者において必要な安全措置が講じられ、良好な樹木の生育が進み、都市公園の安全性がより一層高まることが期待されます。

### 編集後記

今年も汗ばむ日が増えてきました。私は夏が嫌いです(笑)。最近の夏は梅雨が明けると尋常ではない高温になります。気象庁もこの夏から新たに最高気温が40℃以上となった日を「酷暑日」と定義します。当協会の会員も外仕事が多く、猛暑日でも頑張っています。今年の夏は酷暑日になる日が一日も無いように祈るばかりです。

最後になりますが、今回も記事や写真を提供していただいた皆様に感謝申し上げます。

発行 一般社団法人  
 石川県造園緑化建設協会  
 総務企画部会  
 〒920-0376  
 金沢市福増町北840番2  
 TEL 076-269-1110  
 FAX 076-269-1279  
 発行責任者 浦 誠